



益 田 市

令和 8 年 9 月 1 4 日
報 道 発 表 資 料

担当課名	教育部 文化振興課
担当者名	大畑
電話番号	0856-31-1045
FAX 番号	0856-31-0641
E-mail	bunka@city.masuda.lg.jp

雪舟の郷記念館改修整備工事竣工式及びリニューアルオープン

記念特別展開会式・内覧会の開催について

このことについて、令和6年度より閉館し整備を進めていました雪舟の郷記念館につきまして、この度、関係工事が完了しリニューアルオープンの運びとなりました。

このことから、施設の整備状況及びリニューアルオープンについて広く知っていただくことを目的に、下記により竣工式及びリニューアルオープン記念特別展開会式・内覧会を開催しますのでご案内いたします。

記

1. 日 時 令和8年10月2日（金）14：30～
2. 場 所 益田市立雪舟の郷記念館（益田市乙吉町イ 1149）
3. 主な内容
 - ・主催者等あいさつ
 - ・テープカット
 - ・学芸員による記念特別展概要解説
 - ・館内、展示の内覧
4. そ の 他 取材をご希望の場合は、9月30日（水）17時までに、文化振興課大畑（31-1045）までご連絡ください。



益田市立雪舟の郷記念館
Seta Memorial Museum



重要文化財「雲谷等益」(雪舟等楊像) (山口市常栄寺所蔵 山口県立美術館寄託)

後期展示(10月1日〜30日)

もう一つの海のシルクロード

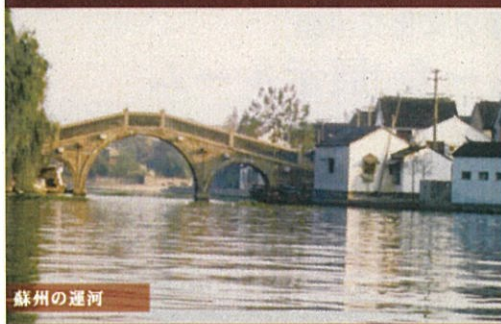
寧波と益田

雪舟の郷記念館リニユーアルオープン記念特別展

2026.
10/3 ▶ 11/30
Sat. Mon.



青森県立博物館出品



蘇州の運河



重要文化財「雪舟等楊」(益田兼光像) (益田市立雪舟の郷記念館所蔵)

前期展示(10月3日〜31日)



中須渡想像図(画:香川元太郎)

前期展示(10/3〜31) 注目の展示品: 重要文化財 雲谷等與「雪舟等楊像」(山口県立美術館所蔵)

会場: 益田市立雪舟の郷記念館

島根県益田市乙吉町イ1149 電話 0856-24-0500

休館日: 毎週火曜日

※ただし11/3(火)は開館、11/4(水)が休館

開館時間: 9:00 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

入館料: 一般 500円 (400円)

小中高 150円 (120円)

電子決済
できます

※()内は20名以上団体料金及び各種割引料金

同時
開催

寧波と益田

— 交流の軌跡 —

会場: 益田市立歴史文化交流館

「れきしーな」展示ルーム

島根県益田市本町 6-8 / 電話 0856-23-2635

入館料: 一般 200円 (160円)

高校生以下無料

※()内は20名以上団体料金及び各種割引料金

同時開催 雪舟の郷記念館 第二展示室

「水墨の精華—受け継がれる水墨の美—」



日本遺産



中世を旅する物語
益田



文化庁

令和8年度
地域ゆかりの文化遺産を
活用した展覧会支援事業

主催: 益田市・益田市教育委員会



寧波市と益田市の交流

— 友好交流議定書締結35周年 —



益田を終焉の地とする水墨画家・雪舟等楊が、室町時代に遣明船で中国（明）へ渡り、寧波の天童寺を訪れて「首座」の称号を贈られたことに由来します。

昭和63年(1988)、益田市から初めて友好使節団が寧波市を訪問しました。さらに平成3年(1991)10月20日には両市が友好交流議定書を締結し、以来、文化・スポーツ・農業・経済など多様な分野で交流が続いています。

雪舟ゆかりの歴史を礎として築かれた両市の友好は、今日まで受け継がれています。

令和3年(2021)、友好交流議定書締結30周年を記念して、両市による記念品交換が行われました。

益田市から寧波市へ



『海を渡る雪舟』 川崎麻央
益田市蔵
(複製／原本＝寧波市)

寧波市と益田市との友好交流を象徴する作品として、遣明船で中国へ渡った48歳頃の雪舟をイメージして描いたもの。

寧波市から益田市へ



『古代貿易船の模型』
楊雪峰
(Yang Xuefeng/浙江省/
無形文化遺産伝承者)
益田市蔵

明の時代の貿易船。上海交通大学の研究成果に基づき制作されたもの。

雪舟の郷記念館リニューアルオープン記念特別展

寧波と益田

— もう一つの海のシルクロード —

益田市が友好都市提携を結ぶ中国・寧波市は、古くから国際貿易都市として栄え、明代には日本船の入港地に指定されていました。勘合を有する遣明船はこの港を目指して渡航し、多くの舶来品を日本にもたらしました。

日本海に面し天然の良港を有する益田も、豊富な材木や鉱物資源を背景に日本海交易の拠点として発展し、寧波を経て多くの物資がもたらされたと考えられています。

こうした交流の中で、文化を求めて海を渡った人物が画僧・雪舟等楊です。雪舟は応仁元年(1467)に遣明船で寧波へ渡り、中国各地で名品に学びました。帰国後、益田もその創作活動の重要な拠点の一つとなり、益田氏が所持した『益田兼堯像』(益田市立雪舟の郷記念館蔵)や『四季花鳥図屏風』(京都国立博物館蔵)、萬福寺・医光寺に伝わる庭園などにその足跡が残されています。

本展では、交易と文化を通じて海を越えて結ばれていた寧波と益田の関係を、出土品や美術作品から紹介します。それは東へと延びるもう一つの「海のシルクロード」を探る試みでもあります。

同時開催

寧波と益田 — 交流の軌跡 —

室町時代、雪舟等楊が遣明船で中国・寧波へ渡り、天童寺で「首座」の称号を贈られたことが寧波市と益田市の交流の由来とされています。

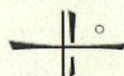
両市の交流の歩みを、記念品や関連資料とともに紹介します。

益田市立歴史文化交流館

「れきしーな」展示ルーム

- 交通案内
- 石見交通バス「折戸」下車徒歩1分
 - JR 益田駅から自動車約6分
 - 浜田自動車道 浜田ICから自動車約50分
 - 中国自動車道 戸内ICから自動車約90分
 - 萩・石見空港から自動車約20分

※無料駐車場あり



益田市立
雪舟の郷記念館



益田市立 雪舟の郷記念館
Seishu Memorial Museum

交通案内

- 石見交通バス「雪舟記念館入口」下車徒歩5分
- JR 益田駅からタクシー約10分
- 浜田自動車道 浜田ICから車約50分
- 中国自動車道 戸内ICから車約90分
- 萩・石見空港から JR 益田駅まで連絡バス約15分

※無料駐車場あり